

阿武隈山間地域で栽培したペレニアルライグラス「夏ごしペレ」は従来品種と同等以上の収量が期待できる（飯舘村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 除染後農地におけるペレニアルライグラスの栽培実証（飯舘村）

担当者 大矢浩司

I 新技術の解説

1 要旨

ペレニアルライグラスの改良品種である「夏ごしペレ」が2022年3月に「福島県飼料作物奨励品種」として新たに登録された。

そこで栽培適応地域とされている阿武隈山間地域の飯舘村において「夏ごしペレ」を栽培したところ（図1）従来品種の「ヤツユメ」と同等以上の乾物収量が確保できたことから、「夏ごしペレ」の利活用と普及拡大が今後期待できる。

- (1) 10a 当たり乾物重は1・2番草で「夏ごしペレ」は「ヤツユメ」と同等で、越夏（8月下旬から9月上旬）後の3番草で「夏ごしペレ」が328kg、「ヤツユメ」が259kgであった（表1）。
- (2) 「夏ごしペレ」及び「ヤツユメ」の放射性セシウム濃度は1・2番草ともに、飼料の暫定許容値である1kgあたり100Bqを下回り、移行係数についても「夏ごしペレ」「ヤツユメ」とも同程度であった（表2）。

2 期待される効果

阿武隈山間地域の営農再開地域において、「夏ごしペレ」を栽培した場合の参考資料となる。

3 活用上の留意点

- (1) 「夏ごしペレ」「ヤツユメ」とともに、2021年9月13日に10a当たり4.0kg播種した。播種適期より遅い時期に播種した場合、初期生育が十分に得られない恐れがある。
- (2) ペレニアルライグラスは採草放牧兼用であるが、今回は採草利用として実証した。
- (3) 土壌分析結果に基づき、土壌中交換性カリ含量が乾土100g当たり30~40mgに維持できるようなカリ肥料の施用による放射性セシウム吸収抑制対策を行う。
- (4) 今回栽培した「夏ごしペレ」「ヤツユメ」とも牛への給与実証は行っていない。

II 具体的データ等



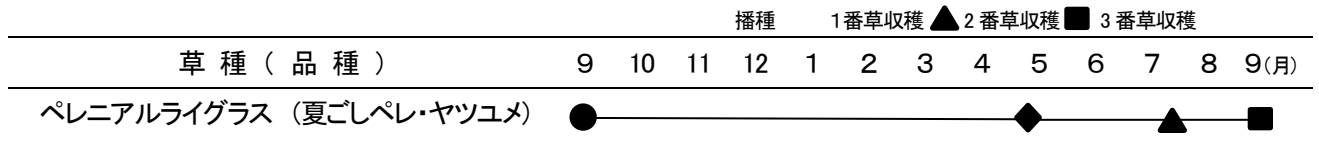


図1 栽培体系

表1 ペレニアルライグラスの乾物収量及び越夏性

品 種	乾 物 収 量 (kg/10a) ^{※1}			越夏性 ^{※2}
	1 番草	2 番草	3 番草	
夏ごしペレ	767± 45 n.s.	430±20 n.s.	328± 78 *	7
ヤツユメ	650±178	505±50	259±119	3

※1 測定値 = 平均値 ± 標準偏差。t検定により*で 5%水準で有意差がみられた(n.s.は有意差なし)

※2 「飼料作物系統適応性検定試験実施要領」に基づき評点法により調査

表2 ペレニアルライグラスの放射性セシウム濃度

品 種	番草	土壌中交換性カリ 含量 ^{※1} (mg/100gDW)	放射性セシウム濃度		移行係数
			土壌中(Bq/kgDW)	牧草中(Bq/kg ^{※2})	
夏ごしペレ	1番草	9.2±2.9	816±105	24.5±2.2	0.0305
	2番草	34.8±7.7	600±125	19.4±2.6	0.0156
ヤツユメ	1番草	11.5±3.9	836±160	29.3±5.1	0.0354
	2番草	37.9±6.9	404±196	10.1±1.3	0.0250

※1 測定値 = 平均値 ± 標準偏差

※2 水分 80%換算

III その他

1 執筆者 大矢浩司

2 実施期間 令和4年度

3 主な参考文献・資料

(1) 令和3年度実用化技術情報（普及に移しうる成果）「ペレニアルライグラスの新たな奨励品種「夏ごしペレ」」

(2) 夏ごしペレ栽培マニュアル（寒冷地暫定版）（農研機構東北農業研究センター、2020）